

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2011

—人・スポーツ・未来—

開 催 要 項

1 開催趣旨

我が国においては、自由時間の増大、体力・健康づくりへの国民の関心の高まりなどを背景にスポーツ需要が増大しており、誰もがいつでもどこでも気軽に参加できる生涯スポーツ振興のための環境の整備が求められています。

また、生涯スポーツの推進には、国や地方公共団体ばかりでなく、各種スポーツ・レクリエーション団体や、スポーツクラブ、学校関係者、スポーツ関連産業団体等が、それぞれ重要な役割を果たしており、これら関係者相互の連携・協力が急務となっています。

このため、関係の各界各層の人々が一堂に会し、生涯スポーツ振興のための現状及び課題について、研究協議や意見交換を行い、相互理解を深め、関係者間の協調・協力体制の強化と生涯スポーツ振興の気運の醸成を目的として、本全国会議を開催するものです。

2 主 催

文部科学省
生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会
財団法人日本体育協会
財団法人日本レクリエーション協会
財団法人日本体育施設協会
財団法人スポーツ安全協会
社団法人全国体育指導委員連合
社団法人スポーツ健康産業団体連合会
財団法人日本障害者スポーツ協会
財団法人健康・体力づくり事業財団
神奈川県教育委員会

3 後 援

体力づくり国民会議

4 全体テーマ

「生涯スポーツの新たな時代に向けて」 ～スポーツ立国戦略 スタート！～

「生涯スポーツ社会の実現に向けた施策や取組」など、スポーツ振興基本計画の達成に向けて取り組んできたこれまでの十年を振り返るとともに、「スポーツ立国戦略」を踏まえた生涯スポーツの新たな時代に向けて、充実・推進していくべき施策の方向性について検討を深める。

具体的には、「全ての国民が身近な地域で生涯にわたってスポーツに親しめる環境が求められている現在、次世代の子供たちの明るい未来につなげていくために、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策として、今取り組むべきことは何か、併せて、国民全体の健康・体力づくりに大いに貢献するスポーツ活動を充実させるために、国民が心身ともに健康で活力ある生活を築いていく方策として、今取り組むべきことは何か」という認識の下、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現について検討し、その方向性を探る。

5 期 日

平成23年2月3日（木）

6 会 場

横浜ロイヤルパークホテル

〒220-8173 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-3 TEL. 045-221-1111

7 日 程

受付 9:15- 10:00		トークセッション 10:50-12:30 (100)	昼食休憩 12:30-13:30 (60)	分科会 13:30-16:30 (180)	情報交換会 17:00-18:30 (90)
----------------------	--	----------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------

オープニング・表彰式
10:00-10:40

8 参加者

地方公共団体関係者

スポーツ・レクリエーション団体関係者

各種産業界関係者

体力づくり国民会議参加団体関係者

学識経験者

その他関係者 他 （約1,100名）

9 内 容

(1) オープニング・表彰式（体力づくり優秀組織表彰）

(2) 全体会（3F 鳳翔）

○トークセッション 「スポーツの可能性」

語り手：乙武 洋匡（作家）

藤木麻祐子（北京オリンピックシンクロナイズドスイミング スペイン代表コーチ）

聞き手：山本 浩（法政大学スポーツ健康学部 教授）

(3) 分科会（2F・3F各会場）

①第1分科会

【総合型地域スポーツクラブ

－教育機関等との連携が生み出す「自立」への可能性－】

◆(財)日本体育協会

②第2分科会

【地域におけるスポーツ活動の今と未来（将来展望）】

◆(社)全国体育指導委員連合・(財)日本障害者スポーツ協会

③第3分科会

【利用者に親しまれるスポーツ施設の整備と充実】

◆(財)日本体育施設協会・(財)スポーツ安全協会・(社)スポーツ健康産業団体連合会

④第4分科会

【子供の体力を向上させる効果的なスポーツ・運動遊び】

◆(財)日本レクリエーション協会

⑤第5分科会

【地域における健康・体力づくり～貯筋運動プロジェクト】

◆(財)健康・体力づくり事業財団

(4) 展示

生涯スポーツ・体力づくり関係団体、企業等のスポーツ関連活動を幅広く紹介するため、展示を実施します。

○展示時間 平成23年2月3日（木）9:30～16:30

10 参加申込み（平成23年1月7日（金）（締切日必着））

本全国会議に参加を希望される方は、別添の「参加申込書」及び「振込通知書」に必要事項を御記入の上、下記宛先まで郵送又はFAXにてお申し込みください。

＜郵送の場合＞

〒141-8691 東京都品川区大崎郵便局 私書箱5号

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2011」係

＜FAX（ファックス）の場合＞

FAX番号：03-3779-3371

11 参加費等

- ①参加費 1人2,000円（資料代込み）
- ②弁当代 1人2,000円（希望者のみ）
- ③情報交換会会費 1人4,000円（希望者のみ）

〔振込方法〕

参加申込書及び振込通知書を送付後10日以内に、参加される方の該当する経費を下記口座にお振り込みください。

（※1月に申し込まれた方は、1月12日までにお振り込みください。）

みずほ銀行 渋谷支店 普通預金 3427831 ^{ザイ}（財）日本体育協会

12 留意事項

参加申込みをされた方御本人の理由で参加できなかった場合は、受付時の配布資料を送付いたしますが、参加費等については返却をいたしません。

また、参加申込書に記載される個人情報については、本全国会議開催に係る事務以外の目的には使用いたしません。

13 その他

詳細及びその他不明な点については、下記にお問合せをお願いします。

文部科学省スポーツ・青少年局生涯スポーツ課スポーツ指導係

Tel 03-6734-2686 Fax 03-6734-3792

（財）日本体育協会生涯スポーツ課（実行委員会事務局）

Tel 03-3481-2215 Fax 03-3481-2284

なお、本全国会議は、（財）日本体育協会公認スポーツ指導者登録規程第4条に定める資格登録更新のための義務研修の一つとなっています。

詳しくは、日本体育協会HP (<http://www.japan-sports.or.jp/coach/get/duty.html>) を御参照ください。

<第1分科会>

1 テーマ

【総合型地域スポーツクラブ—教育機関等との連携が生み出す「自立」への可能性—】

2 趣旨

平成22年7月現在、総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）は、全国1,249の市町村において、3,114クラブが育成されている。総合型クラブ設立までの道のりや設立後の運営体制等は千差万別であるものの、各総合型クラブにおいては、「自立」に向けた各種取り組みが盛んになされようとしている。

活発な総合型クラブ育成が全国展開されている最中、平成22年8月に「スポーツ立国戦略—スポーツコミュニティ・ニッポン—」が発表された。重点戦略の一つである「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」においては、「新しい公共」を担うコミュニティスポーツクラブの推進が掲げられ、学校をはじめとした既存の関係機関・団体との連携の充実発展がうたわれている。つまり、総合型クラブの「自立」とは、活動圏域内における各種連携（ネットワークづくり）が盛んとなり、地域住民の多くがクラブの存在を歓迎し、クラブを中心としたコミュニティ（地域）の再編がなされ始める、「新しい公共」の創造をみる状況にほかならないのである。

そこで本分科会では、「自立」を意図した総合型クラブと教育機関等との連携事例を基に、今後の総合型クラブ展開の方向性について議論を深めたい。運営事情の異なる総合型クラブ育成展開の中で、各総合型クラブが比較的容易に「実践」できる連携（ネットワークづくり）の在り方に「気付ける」機会となればと考えている。

3 コーディネーター

谷口 勇一（大分大学 准教授／元（財）日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成委員会中央企画班員・九州ブロック地方企画班員）

4 パネリスト

(1) 「子供たちはスポーツとどのように出会うのか？」

—タレントが眠る教育現場が抱えるジレンマと総合型クラブの役割—

中平 稔人（福岡県 福津市立福間中学校教頭／元福岡県立スポーツ科学情報センタースポーツ振興課長／元（財）日本体育協会総合型地域スポーツクラブ育成委員会九州ブロック地方企画班員）

(2) 「総合型クラブにおける人的資源の環流・循環を促すシステムづくり

—大学と総合型クラブの連携協力関係の構築を目指して—

阿部 篤志（仙台大学講師／（財）日本体育協会公認コーチ養成講習会講師）

(3) 「総合型クラブの機能性を高める“ネットワーク”のつくり方

—新たな時代（協働社会）の可能性を切りひらく総合型クラブを目指して—

井上 規之（北海道 びふかスポーツクラブコーディネーター）

<第2分科会>

1 テーマ

【地域におけるスポーツ活動の今と未来（将来展望）】

2 趣旨

スポーツ振興基本計画の最終年度を迎え、地域における生涯スポーツの推進状況を総括し、更なる発展を目指していく時期にある。また、スポーツ立国戦略を踏まえた新たな地域スポーツ振興の在り方を模索していく時期にもある。

そのような中で、地域住民が身近にあるスポーツ資源を活用しつつ、継続的にスポーツに関わっていける環境を一層整備していくことが求められている。

そこで、先進的なスポーツ活動に取り組んでいる実践者による研究発表とそれを巡る研究協議を行い、地域住民の生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に資することとする。

3 コーディネーター

土谷 忠昭（社団法人全国体育指導委員連合 副会長／大分県体育指導委員協議会 会長）

4 パネリスト

(1) 「ウォーキングを通じた、自然を愛する豊かな心と体力づくり」

石田 信夫（神奈川県体育指導委員連合会 常任理事／秦野市体育指導委員連絡協議会 会長）

(2) 「女性のライフステージに応じたスポーツに親しむことができる環境づくり」

後藤 美恵（ほなみふれあいスポーツクラブ マネジャー）

(3) 「スポーツ立国の実現に向けた地域スポーツの課題と展望」

松永 敬子（龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース 准教授）

<第3分科会>

1 テーマ

【利用者に親しまれるスポーツ施設の整備と充実】

2 趣旨

平成19年の日本の体育・スポーツ施設総数は、約22万か所であり、内訳は、学校関係で65%、公共施設が24%、民間・職場施設が11%となっている。明日へのリフレッシュのため誰もが身近にスポーツを愛好するには、これらのスポーツ施設におけるサービスや安全管理及び利用率確保等の工夫が求められている。近年、スポーツ施設や用具等における技術革新は目覚ましく、ロングパイル人工芝等はその利用が拡大し、スポーツの普及に貢献している。また、近年若い素材の総アルミ製のバレー支柱等はその代表であるが利便性が大変向上しているが、半面、便利なスポーツ用器具でありながら予想もしない事故が発生している。車は車検制度により安全と機能を維持している。一方スポーツ用器具等には耐用年数の制度がないこともありメンテナンスフリーのまま使用していることがある。

そこで、施設が安心して利用できる施設であるためには、用器具等の健康チェックを改めて啓発したい。スポーツ施設に限らず、施設を建設するに当たっては、その要望を絵に表すと同時に費用等が出されるが、肝心の使う側から見た利便性等は意外にも後回しにされることがある。それらの観点から、施設の設計段階から考える親しまれるスポーツ施設の在り方を併せて研究協議するものである。

3 コーディネーター

石原 智也 ((株)NTTファシリティーズ建築事業本部都市建築設計事務所プロジェクト設計部 設計部長／(財)日本体育施設協会施設設計監理部会 部会長)

4 パネリスト

(1) 「設計者から考える親しまれるスポーツ施設」

石原 智也 (同上)

(2) 「ロングパイル人工芝の普及とひろがるフットサル」

中桐 俊男 (日本フットサル連盟副会長／JFA施設委員会 委員)

(3) 「魅力あるスポーツ用器具と安全」

梅原 宏 (セノー(株)営業本部室 室長／(財)日本体育施設協会施設用器具部会事務局長)

<第4分科会>

1 テーマ

【子供の体力を向上させる効果的なスポーツ・運動遊び】

2 趣旨

子供の体力は近年の減少傾向から下げ止まったと言われているが、まだ低い状態であることに変わりない。子供の体力向上への取組は、これからも重要な課題である。また、生涯にわたってスポーツを楽しむことについては幼少期からの様々なスポーツ体験もまた欠かせないものである。

そこでスポーツ・運動遊びを通じて子供の体力向上を図る具体的な活動について事例発表を基に考える。子供だけでなく年代に関係なく様々な動きが楽しめる種目として、カバディ、3B体操、ロープ・ジャンプ・エクストラを取り上げる。各事例では、調査データ等を基にその各種目の持つ特徴的な効果を明らかにし、併せて子供たちが自ら進んで活動に取り組むために不可欠な楽しさについて発表。その際、実際に体験する時間も取って進める。

3 コーディネーター

中村 和彦 (山梨大学 准教授)

4 パネリスト

(1) 「カバディ」

河合 陽児 (日本カバディ協会 事務局長)

(2) 「3B体操」

柴田 久美子 ((社)日本3B体操協会神奈川県支部 指導員)

(3) 「ロープ・ジャンプ・エクストラ」

古田 洋一 ((財)日本レクリエーション協会)

<第5分科会>

1 テーマ

【地域における健康・体力づくり～貯筋運動プロジェクト】

2 趣旨

運動・スポーツを開始する目的の第一は「健康・体力づくり」であり、地域のスポーツ振興を担う総合型地域スポーツクラブは、今後国民全体の健康・体力づくりに今まで以上に貢献していくことが求められている。一方で、「スポーツ」という切り口では、クラブの敷居を越えられない運動・スポーツ潜在層は多数存在しており、これらの層に対して「健康・体力づくり」という切り口で働きかけていくことは、運動・スポーツ開始者や新たなクラブ参加者の増加に有効であると推測される。しかしながらこの層は、今まで、運動・スポーツに親しみが少ないだけに、専門の健康運動指導者によって、安全に、かつ効果の上がる指導を行うことが、継続モチベーションの維持に大変重要と思われる。

そこで、本分科会では、平成22年度から当財団で開始した「貯筋運動プロジェクト」を柱に、総合型地域スポーツクラブと健康運動指導者の連携が地域における健康・体力づくりにどのような効果を生み出せるのか、モデル事業として展開し始めたところであるので報告したい。

3 コーディネーター

川西 正志（鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター 教授／学長補佐）

4 パネリスト

(1) 「総合型地域スポーツクラブで行う貯筋運動プロジェクトの効果」

福永 哲夫（鹿屋体育大学 学長）

(2) 「総合型地域スポーツクラブで行う健康・体力づくり事業の可能性」

松本 弘志（NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF 理事）

(3) 「健康運動指導士が総合型地域スポーツクラブで仕事をする事
～外から見た総合型地域スポーツクラブ～」

梅田 陽子（健康運動指導士／トータルフィット株式会社 代表取締役）